

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2018-167883

(P2018-167883A)

(43) 公開日 平成30年11月1日(2018.11.1)

(51) Int.Cl.  
**B 6 5 D 35/28 (2006.01)**F I  
B 6 5 D 35/28テーマコード (参考)  
3 E 0 6 5

審査請求 未請求 請求項の数 7 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願2017-68424 (P2017-68424)  
(22) 出願日 平成29年3月30日 (2017. 3. 30)(71) 出願人 512228794  
樋口 佐百合  
東京都練馬区早宮 3-57-2  
(74) 代理人 100095267  
弁理士 小島 高城郎  
(74) 代理人 100124176  
弁理士 河合 典子  
(72) 発明者 樋口 佐百合  
東京都練馬区早宮 3-57-2  
Fターム(参考) 3E065 BA11 FA11 GA03 JA12 JA37

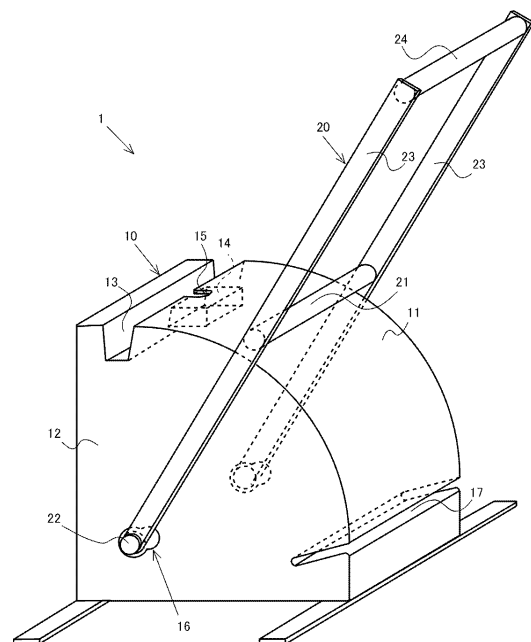
(54) 【発明の名称】 フィルムパック搾り器

## (57) 【要約】

【課題】フィルムパック搾り器において、ローラーを下げて搾り終えた後に、ローラーを円滑に初期位置に上げることができるようにする。

【解決手段】フィルムパック30を載置するための湾曲面11を具備する基台10と、基台の各側面に形成された軸孔16にて軸支される回動レバー20と、湾曲面との間にフィルムパックを挟んだ状態にて湾曲面に沿って移動するべく回動レバーに取り付けられたローラー21と、を有するフィルムパック搾り器1において、軸孔が、湾曲面に沿ってローラーを下げる際に回動レバーの軸22を軸支するための主軸孔16aと、主軸孔16aよりも湾曲面に近い位置に設けられかつ湾曲面に沿ってローラーを上げる際に回動レバーの軸を軸支するための副軸孔16bと、を具備し、回動レバーを操作することにより軸22が主軸孔16aと副軸孔16bとの間で移動可能である。

【選択図】 図1



**【特許請求の範囲】****【請求項 1】**

内容物を搾り出すべくフィルムバック（３０）を載置するための湾曲面（１１）を具備する基台（１０）と、前記基台（１０）の各側面（１２）に形成された軸孔（１６）にて軸支される回動レバー（２０）と、前記湾曲面（１１）との間に前記フィルムバック（３０）を挟んだ状態にて該湾曲面（１１）に沿って移動するべく前記回動レバー（２０）に取り付けられたローラー（２１）と、を有するフィルムバック搾り器（１）において、

前記軸孔（１６）が、

前記湾曲面（１１）に沿って前記ローラー（２１）を下げる際に前記回動レバー（２０）の軸（２２）を軸支するための主軸孔（１６ａ）と、

前記主軸孔（１６ａ）よりも前記湾曲面（１１）に近い位置に設けられかつ前記湾曲面（１１）に沿って前記ローラー（２１）を上げる際に前記回動レバー（２０）の軸（２２）を軸支するための副軸孔（１６ｂ）と、を具備し、

前記回動レバー（２０）を操作することにより該回動レバー（２０）の軸（２２）が前記主軸孔（１６ａ）と前記副軸孔（１６ｂ）との間で移動可能であることを特徴とするフィルムバック搾り器。

10

**【請求項 2】**

前記主軸孔（１６ａ）と前記副軸孔（１６ｂ）の各中心を結ぶ直線が、水平方向に対して所定の角度（ ）をなすことを特徴とする

請求項 1 に記載のフィルムバック搾り器。

20

**【請求項 3】**

前記主軸孔（１６ａ）の直径が前記副軸孔（１６ｂ）の直径よりも大きいことを特徴とする

請求項 1 又は 2 に記載のフィルムバック搾り器。

**【請求項 4】**

前記主軸孔（１６ａ）の直径が前記副軸孔（１６ｂ）の直径と等しく、前記軸孔（１６）の外郭形状が長円形であることを特徴とする

請求項 1 又は 2 に記載のフィルムバック搾り器。

**【請求項 5】**

前記主軸孔（１６ａ）と前記副軸孔（１６ｂ）の各中心を結ぶ直線の長さ（ｄ１）が、該主軸孔（１６ａ）と該副軸孔（１６ｂ）の各半径の和よりも短いことを特徴とする

請求項 1 ～ 4 のいずれかに記載のフィルムバック搾り器。

30

**【請求項 6】**

着脱可能な受け板（４０）を支持するべく、前記基台（１０）を前記湾曲面（１１）の下端（１１ａ）から後方に向かって切り欠いた溝として設けられた受け板取付溝（１７）を有することを特徴とする

請求項 1 ～ 5 のいずれかに記載のフィルムバック搾り器。

**【請求項 7】**

前記湾曲面（１１）の下端（１１ａ）が前記基台（１０）の底面から所定の高さに位置し、該湾曲面（１１）の下端（１１ａ）と該基台（１０）の底面の間において該基台（１０）の内部空間が開口していることを特徴とする

請求項 1 ～ 6 のいずれかに記載のフィルムバック搾り器。

40

**【発明の詳細な説明】****【技術分野】****【0001】**

本発明は、接着剤等のペースト状内容物を充填したフィルムバックから内容物を搾り出すための搾り器に関する。

**【背景技術】****【0002】**

フィルムバックはソーセージパックとも称され、筒状の包装材に接着剤等の高粘度のペ

50

ースト状の内容物が充填され、その両端が留め金で密封されたものである。このようなフィルムパックから内容物を搾り出すための搾り器が知られている。

【 0 0 0 3 】

特許文献 1 の搾り器は、フィルムパックの一方の留め具に係止する係止部、フィルムパックが載置される湾曲面、内容物を搾り出すためのローラーを回動させるハンドルを備えている。

【 先行技術文献 】

【 特許文献 】

【 0 0 0 4 】

【 特許文献 1 】 特開 2 0 1 4 - 4 6 9 7 8 号 公 報

10

【 発明の概要 】

【 発明が解決しようとする課題 】

【 0 0 0 5 】

特許文献 1 の搾り器は、ローラと湾曲面の間にフィルムパックを挟んだ状態で、ハンドルを用いてローラを湾曲面に沿って上から下に下げることによりフィルムパックの内容物を搾り出す。その後、ローラを初期位置に戻すためにハンドルを上げる必要があるが、その場合、ローラが、押しつぶされたフィルムパックに接触しながら上がって行くので引っ掛かり易く、円滑に上がらないことがある。

【 0 0 0 6 】

以上の問題点に鑑み本発明の目的は、フィルムパック搾り器において、ローラーを下げて搾り終えた後に、ローラーを円滑に初期位置に上げることができるようにすることである。

20

【 課題を解決するための手段 】

【 0 0 0 7 】

上記の課題を解決すべく、本発明は以下の構成を提供する。括弧内の数字は、後述する図面中の符号であり、参考のために付するものである。

・ 本発明の態様は、内容物を搾り出すべくフィルムパック ( 3 0 ) を載置するための湾曲面 ( 1 1 ) を具備する基台 ( 1 0 ) と、前記基台 ( 1 0 ) の各側面 ( 1 2 ) に形成された軸孔 ( 1 6 ) にて軸支される回動レバー ( 2 0 ) と、前記湾曲面 ( 1 1 ) との間に前記フィルムパック ( 3 0 ) を挟んだ状態にて該湾曲面 ( 1 1 ) に沿って移動するべく前記回動レバー ( 2 0 ) に取り付けられたローラー ( 2 1 ) と、を有するフィルムパック搾り器 ( 1 ) において、前記軸孔 ( 1 6 ) が、前記湾曲面 ( 1 1 ) に沿って前記ローラー ( 2 1 ) を下げる際に前記回動レバー ( 2 0 ) の軸 ( 2 2 ) を軸支するための主軸孔 ( 1 6 a ) と、前記主軸孔 ( 1 6 a ) よりも前記湾曲面 ( 1 1 ) に近い位置に設けられかつ前記湾曲面 ( 1 1 ) に沿って前記ローラー ( 2 1 ) を上げる際に前記回動レバー ( 2 0 ) の軸 ( 2 2 ) を軸支するための副軸孔 ( 1 6 b ) と、を具備し、前記回動レバー ( 2 0 ) を操作することにより該回動レバー ( 2 0 ) の軸 ( 2 2 ) が前記主軸孔 ( 1 6 a ) と前記副軸孔 ( 1 6 b ) との間で移動可能であることを特徴とする。

30

・ 上記態様において、前記主軸孔 ( 1 6 a ) と前記副軸孔 ( 1 6 b ) の各中心を結ぶ直線が、水平方向に対して所定の角度 ( ) をなすことを特徴とする。

40

・ 上記態様において、前記主軸孔 ( 1 6 a ) の直径が前記副軸孔 ( 1 6 b ) の直径よりも大きいことを特徴とする。

・ 上記態様において、前記主軸孔 ( 1 6 a ) の直径が前記副軸孔 ( 1 6 b ) の直径と等しく、前記軸孔 ( 1 6 ) の外郭形状が長円形であることを特徴とする。

・ 上記態様において、前記主軸孔 ( 1 6 a ) と前記副軸孔 ( 1 6 b ) の各中心を結ぶ直線の長さ ( d 1 ) が、該主軸孔 ( 1 6 a ) と該副軸孔 ( 1 6 b ) の各半径の和よりも短いことを特徴とする。

・ 上記態様において、着脱可能な受け板 ( 4 0 ) を支持すべく、前記基台 ( 1 0 ) を前記湾曲面 ( 1 1 ) の下端 ( 1 1 a ) から後方に向かって切り欠いた溝として設けられた受け板取付溝 ( 1 7 ) を有することを特徴とする。

50

・ 上記態様において、前記湾曲面（１１）の下端（１１ａ）が前記基台（１０）の底面から所定の高さに位置し、該湾曲面（１１）の下端（１１ａ）と該基台（１０）の底面の間において該基台（１０）の内部空間が開口していることを特徴とする。

【発明の効果】

【０００８】

本発明によれば、ローラーを取り付けた回動レバーを軸支する軸孔が、ローラーを下ろす際に軸支する主軸孔と、ローラーを上げる際に軸支する副軸孔とを有し、副軸孔は、主軸孔よりも湾曲面に近い位置にある。従って、ローラーを上げる際には、下げる際に比べてローラーと湾曲面の間隙が大きくなるので、湾曲面上のフィルムバックに引っ掛からずにローラーを上げて初期位置に戻すことができる。

10

【図面の簡単な説明】

【０００９】

【図１】図１は、本発明によるフィルムバック搾り器の一実施形態を示した概略斜視図である。

【図２】図２は、図１に示した基台の軸孔の実施例とその作用を説明するための概略図である。

【図３】図３（ａ）は、フィルムバックの一例の外観を示した図であり、（ｂ）（ｃ）（ｄ）は、図１に示したフィルムバック搾り器を用いた搾り出し作業の状況を概略的に示した図である。

【図４】図４（ａ）（ｂ）（ｃ）（ｄ）（ｅ）は、搾り出し作業及びその後のリセット作業の際の基台の軸孔と、回動レバーの軸との関係を模式的に示した図である。

20

【図５】図５（ａ）は図４（ａ）のⅠ－Ⅰ断面を、図５（ｂ）は図４（ｄ）のⅠⅠ－ⅠⅠ断面を概略的に示したものである。図５（ｃ）は別の実施例のⅠ－Ⅰ断面を概略的に示したものである。

【図６】図６（ａ）（ｂ）（ｃ）は、軸孔の別の実施例を示す。

【図７】図７は、基台の別の例を有するフィルムバック搾り器を示す。

【発明を実施するための形態】

【００１０】

以下、本発明の実施例を示した図面を参照しつつ本発明の実施形態を説明する。

本発明のフィルムバック搾り器に適用されるフィルムバックとは、ソーセージバックとも称される。筒状のフレキシブルな合成樹脂等のフィルム包装材に内容物が充填され、その両端が留め金で密封されたものである。内容物は、例えば建築用接着剤等の高粘度のペースト状、半流動性のものであるが、特に限定しない。

30

【００１１】

図１は、本発明によるフィルムバック搾り器の一実施形態を示した概略斜視図である。フィルムバック搾り器１は、基台１０と、基台１０に対して回動可能に取り付けられた回動レバー２０とを有する。基台１０は、フィルムバックを載置するための湾曲面１１と、湾曲面１１を正面から視て左右両側に配置された２つの鉛直な側面１２と、その後方の鉛直な背面及び水平な底面とを具備する。各面は、所定の厚さの面状部材により構成することができる。なお、底面には、所定の厚さの面状部材を取り付なくともよく、図示のような複数の脚板を取り付けてもよい。基台１０の内部は、中空でも中実でも、また中空部分と中実部分が混在していてもよい。

40

【００１２】

湾曲面１１は、背面の上縁近傍から底面の前縁近傍まで延在する所定の幅の帯状の凸面である。側面視における湾曲面１１の主要部（搾り出しに直接関係する部分）の輪郭形状は、所定の半径をもつ円周の略４分の１の部分に相当する。

【００１３】

湾曲面１１の上端部には、幅方向の両端間に延在する作業用凹部１３が形成されている。作業用凹部１３は、例えば略矩形の断面形状を有し、上面が開放された所定の容積の空間を形成している。また、作業用凹部１３の前壁中央部には所定の容積の空間である係止

50

用凹部 14 が形成されている。さらに、係止用凹部 14 の上面を覆う天井板の後縁中央部には、湾曲面側に向かって切り欠かれた切欠き 15 が形成されている。切欠き 15 は、平面視にて略 V 字形状又は U 字形状の輪郭を具備し、フィルムバックの一端を係止するためのものである。

【0014】

回動レバー 20 は、長尺の左右一对のレバー棹 23 を具備する。一对のレバー棹 23 の各々の一端には軸 22 がそれぞれ形成されている。軸 22 は、基台 10 の各側面 12 の軸孔 16 にてそれぞれ軸支される。一对のレバー棹 23 の他端間はハンドル 24 で連結されている。搾りだし作業は、作業者がハンドル 24 を手で持って行う。

【0015】

一对のレバー棹 23 の長手方向の中間部において、これらのレバー棹 23 間に 1 本のローラー 21 が取り付けられている。ローラー 21 は、回動レバー 20 を回すことにより、湾曲面 11 との間に所定の間隙を維持しつつ湾曲面 11 に沿って移動する。

【0016】

図 2 は、図 1 に示した基台 10 の軸孔 16 の実施例とその作用を説明するための概略図である。基台の側面 12 の軸孔 16 は、主軸孔 16a と、副軸孔 16b とを具備する。各々が円形の軸孔である。主軸孔 16a は、湾曲面 11 に沿ってローラー 21 を下げる搾り出し作業の際に回動レバーの軸 22 を軸支するためのものである。一方、副軸孔 16b は、湾曲面 11 に沿ってローラー 21 を上げるリセットの際に回動レバーの軸 22 を軸支するためのものである。回動レバーの軸 22 は、主軸孔 16a と副軸孔 16b との間で移動可能である。

【0017】

図 2 に示す実施例では、主軸孔 16a の中心 C a と副軸孔 16b の中心 C b を結ぶ直線の長さ d1 が、主軸孔 16a と副軸孔 16b の各半径の和よりも短くなっており、双方の軸孔の一部が重なった形状となっている。

【0018】

主軸孔 16a 及び副軸孔 16b の双方とも、軸 22 の円滑な回動を実現するために、軸 22 の周縁に対して一定の間隙をもって軸支するような大きさに設定されている。好適には、主軸孔 16a に対してより大きな間隙を設けることにより、搾り出し作業時には遊嵌状態で軸支する。搾りだし作業時には、ローラー 21 が湾曲面 11 との間に挟んだフィルムバックを略棒体形状から平坦な形状へと押し潰しながら回動するので、軸 22 に大きな負荷がかかる。従って、軸 22 の周囲にある程度の変位が可能な間隙が設けられていることにより円滑な回動を確保できる。一方、軸 22 が副軸孔 16b により軸支されるリセット時には、軸 22 にかかる負荷は小さいので周囲の間隙は小さくても円滑な回動が可能である。よって、主軸孔 16a の直径は、副軸孔 16b の直径よりも大きいことが好適である。

【0019】

また、主軸孔 16a の中心 C a と副軸孔 16b の中心 C b を結ぶ直線の延長線 S と、湾曲面 11 との交点 P における湾曲面 11 の接線 T とは垂直に交わる。この交点 P の位置は、ローラー 21 の最下位置に対応する。すなわち、主軸孔 16a の中心 C a と副軸孔 16b の中心 C b を結ぶ直線 S の方向は、ローラー 21 が最下位置にあるときの回動レバーのレバー棹の長手方向と同じである。

【0020】

また、図示の通り、主軸孔 16a の中心 C a と交点 P との距離 L a よりも、副軸孔 16b の中心 C b と交点 P との距離 L b の方が短い。すなわち、副軸孔 16b は、主軸孔 16a よりも湾曲面 11 に対して距離 d1 だけ近い位置に設けられる。軸孔 22 が主軸孔 16a から副軸孔 16b に移動すると、ローラー 21 も一体に移動するので、ローラー 21 の湾曲面 11 との間隙が距離 d1 だけ大きくなる（移動後のローラー 21 を鎖線で示す）。

【0021】

次に、図 3 及び図 4 を参照して、搾り出し作業工程を説明する。図 3 ( a ) は、フィルムパックの一例の外観を示した図であり、図 3 ( b ) ( c ) ( d ) は、図 1 に示したフィルムパック搾り器を用いた搾り出し作業の状況を概略的に示した図である。図 4 ( a ) ( b ) ( c ) ( d ) ( e ) は、搾り出し時及びその後のリセット時の基台の軸孔と、回動レバーの軸との関係を模式的に示した図である。なお、図 3 及び図 4 では、回動レバー 2 0 ( レバー棹 2 3 ) の操作方向を黒矢印で示している。

【 0 0 2 2 】

図 3 ( a ) に示すように、フィルムパック 3 0 は、フレキシブルな筒状のフィルム 3 1 に内容物を充填し、両端を留め金 3 2 で密封した略棒体形状のものである。

【 0 0 2 3 】

図 3 ( b ) に示すように、先ず、フィルムパック 3 0 の一方の留め金 3 2 を基台 1 0 の切欠き 1 5 に引っ掛けて係止する。作業用凹部 1 3 は、この作業を行うための空間である。回動レバー 2 0 は、この作業の邪魔にならない位置に回動させておく。切欠き 1 5 の幅は、留め金 3 2 よりも小さいため、留め金 3 2 は抜け出せない。図 1 に示した係止用凹部 1 4 内にフィルムパック 3 0 の一端部が収容される。フィルムパック 3 0 の本体は、湾曲面 1 1 上に載置され、切欠き 1 5 から吊り下がった状態となる。さらに、基台 1 0 の受け板取付溝 1 7 には、搾り出された内容物を受けるための受け板 4 0 が差し込まれる。受け板 4 0 は着脱可能であり、必要に応じて用いられる。受け板取付溝 1 7 は、基台 1 0 を湾曲面 1 1 の下端から後方に向かって切り欠いた溝として設けられている。受け板取付溝 1 7 は、後方に向かってやや降り傾斜となっていることが、作業上好適である。

【 0 0 2 4 】

作業開始時には、回動レバー 2 0 を湾曲面 1 1 の最上位置とし、一对のレバー棹 2 3 をほぼ鉛直方向に向ける。このとき、回動レバー 2 0 の軸 2 2 は、軸孔 1 6 の主軸孔 1 6 a 内に位置する。この時点の状態は、図 4 ( a ) に示されている。続いて、フィルムパック 3 0 のもう一方の留め金 3 2 を切り取り、フィルムパック 3 0 の下端を開封する。

【 0 0 2 5 】

次に、図 3 ( b ) の状態から回動レバー 2 0 を回してローラー 2 1 を下げることにより、搾り出しを行う。搾り出し時の変位は、図 4 ( a ) ( b ) ( c ) に示されている。この際、ローラー 2 1 が、湾曲面 1 1 との間にフィルムパック 3 0 を挟んだ状態にて湾曲面 1 1 に沿って移動する。これによりフィルムパック 3 0 は上端側から押し潰され、下端側から内容物 3 3 が押し出され、受け板 4 0 に向かって落ちる。

【 0 0 2 6 】

図 4 ( b ) に示すように、回動レバー 2 0 の回動中、軸 2 2 は、主軸孔 1 6 a から副軸孔 1 6 b へ移動する方向に力を受けないため、軸 2 2 は副軸孔 1 6 b へは移動しない。

【 0 0 2 7 】

図 3 ( c ) は、回動レバー 2 0 すなわちローラー 2 1 が最下位置となった状態を示している ( 図 4 ( c ) に対応 ) 。搾り出された内容物 3 3 は、受け板 4 0 の上に堆積している。ローラー 2 1 により押し潰されたフィルムパック 3 0 は、平坦になって湾曲面 1 1 に張り付いた状態である。

【 0 0 2 8 】

次に、図 3 ( d ) では、最下位置にて回動レバー 2 0 を黒矢印方向に引くことにより、軸 2 2 が主軸孔 1 6 a から副軸孔 1 6 b に移動した状態を示している。この変位は、図 4 ( c ) から ( d ) に対応する。図 2 に示したように、主軸孔 1 6 a と副軸孔 1 6 b の各中心を結ぶ直線は、ローラー 2 1 の最下位置において回動レバー 2 0 のレバー棹 2 3 と同じ方向であるので、最下位置で回動レバー 2 0 をそのまま引くだけで簡単に軸 2 2 が移動する。

【 0 0 2 9 】

その後、図 4 ( d ) に示すように、軸 2 2 が副軸孔 1 6 b に軸支された状態で、黒矢印の方向に回動レバーを回す。これによりローラー 2 1 を上げて初期位置にリセットすることができる。軸 2 2 が副軸孔 1 6 b に移動したことにより、湾曲面 1 1 とローラー 2 1 と

10

20

30

40

50

の間の間隙が大きくなっているので、回動レバーが引っ掛かることなく円滑に上げることができる。

#### 【 0 0 3 0 】

図 4 ( e ) に示すように、回動レバーを最上位置まで上げたならば、黒矢印の方向に回動レバーを押すことにより、軸 2 2 が副軸孔 1 6 b から主軸孔 1 6 a へと移動し、図 4 ( a ) の状態に戻る。

#### 【 0 0 3 1 】

図 5 ( a ) は図 4 ( a ) の I - I 断面を、図 5 ( b ) は図 4 ( d ) の I I - I I 断面を概略的に示したものである。これらの軸支部分の構成は一例であり、多様な構成とすることが可能である。図 5 ( c ) は、軸受けを用いない別の簡易な実施例の I - I 断面の例を概略的に示したものである。この場合、レバー棹 2 3 の先端から垂直に折れ曲がった延長部分として軸が形成されている。

10

#### 【 0 0 3 2 】

図 6 は、軸孔 1 6 の別の例を示す。図 6 ( a ) では、主軸孔 1 6 a と副軸孔 1 6 b の各中心を結ぶ直線の長さ d 2 が、主軸孔 1 6 a と副軸孔 1 6 b の各半径の和よりも長くなっており、双方の軸孔は、通路 1 6 c を介して繋がった形状となっている。通路 1 6 c は、回動レバー 2 0 の軸 2 2 が通過可能な幅を有する。主軸孔 1 6 a と副軸孔 1 6 b の各中心の間が離れるほど、リセット時のローラーと湾曲面の間の間隙が大きくなる。しかしながら、当該間隙は必要最小限とすることが好適である。

20

#### 【 0 0 3 3 】

図 6 ( b ) では、主軸孔 1 6 a の直径が副軸孔 1 6 b の直径と等しく、軸孔 1 6 の外郭形状が長円形である。図示の例では、主軸孔 1 6 a と副軸孔 1 6 b の各中心を結ぶ直線の長さ d 2 が、主軸孔 1 6 a と副軸孔 1 6 b の各半径の和よりも長い、長さ d 2 が各半径の和よりも短くてもよい。主軸孔 1 6 a と副軸孔 1 6 b の各中心を結ぶ直線は、湾曲面に向かって上向きに水平方向に対し角度 をなしている。

#### 【 0 0 3 4 】

さらに、図 6 ( c ) に示すように、主軸孔 1 6 a と副軸孔 1 6 b の各中心を結ぶ直線が、湾曲面に向かって下向きに水平方向に対し角度 をなしていてもよい。この場合、主軸孔 1 6 a の中心と副軸孔 1 6 b の中心を結ぶ直線の延長線 S は、湾曲面 1 1 を下方へ延長した仮想的な延長面上で交わることになる。この場合、ローラー 2 1 を湾曲面 1 1 の最下位置まで押し下げた後、そのまま若干下方に引くことで軸を主軸孔 1 6 a から副軸孔 1 6 b へ移動させることができるので好ましい。

30

#### 【 0 0 3 5 】

図 7 は、基台 1 0 の別の例を有するフィルムバック搾り器 1 A を示す。湾曲面 1 1 の下端 1 1 a が基台 1 0 の底面から所定の高さに位置している。この構成例においては、湾曲面 1 1 の下端 1 1 a と基台 1 0 の底面の間において基台 1 0 の内部空間が開口している。すなわち、湾曲面 1 1 の下端 1 1 a より下方では、基台 1 0 の前面が設けられていない。上述した受け板を用いずに、絞り出された内容物を床面に直接落下させる場合、内容物が付着しないように前面がないことが好ましい。図示しないが、別の構成例として、図 7 の構成例において受け板取付溝 1 7 を設けない構成としてもよい。

40

#### 【 0 0 3 6 】

以上に述べた本発明の実施形態は一例を示したものである。各実施形態で説明した構成は互いに組み合わせることも可能である。また、これら以外にも、設計の変更による多様な変形形態が可能であり、それらについても本発明に含まれるものとする。

#### 【 符号の説明 】

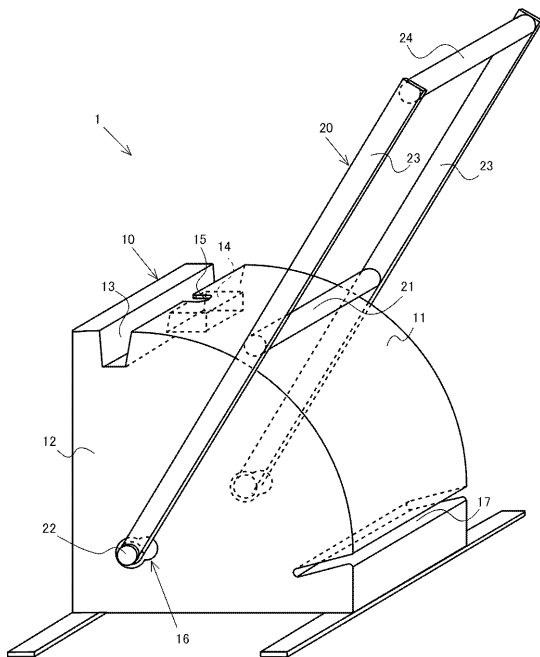
#### 【 0 0 3 7 】

- 1、 1 A フィルムバック搾り器
- 1 0 基台
- 1 1 湾曲面
- 1 1 a 湾曲面下端

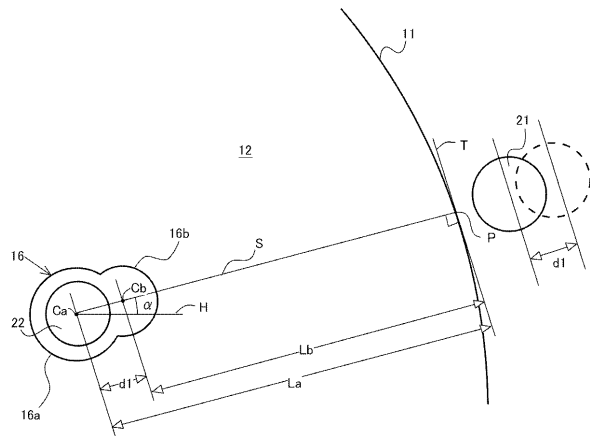
50

- 1 2 側壁
- 1 3 作業用凹部
- 1 4 係止用凹部
- 1 5 係止切欠き
- 1 6 軸孔
- 1 6 a 主軸孔
- 1 6 b 副軸孔
- 1 7 受け板取付溝
- 2 0 回動レバー
- 2 1 ロール
- 2 2 軸
- 2 3 レバー棹
- 2 4 ハンドル
- 3 0 フィルムパック
- 3 1 包装フィルム
- 3 2 留め金
- 3 3 内容物
- 4 0 受け板

【図 1】

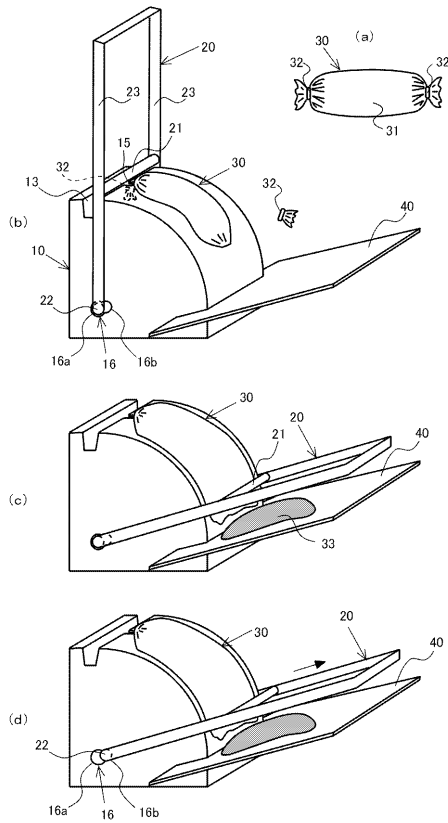


【図 2】

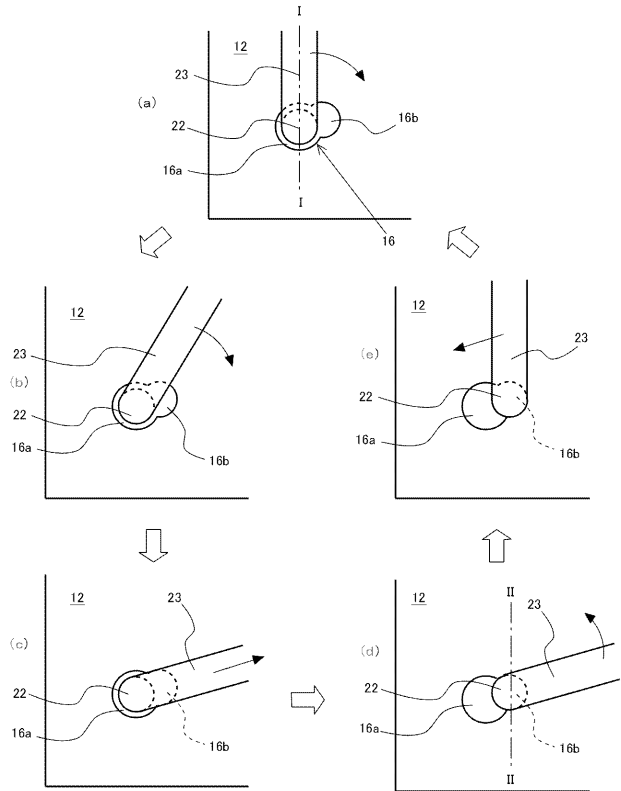




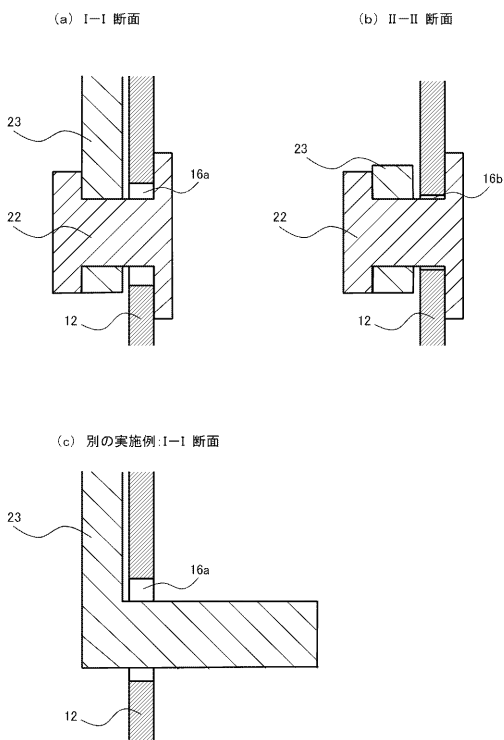
【図 3】



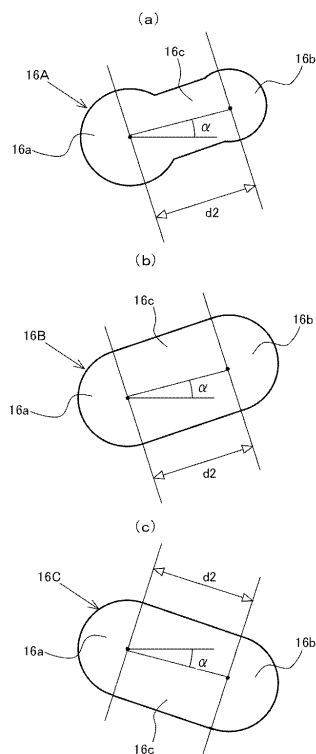
【図 4】



【図 5】



【図 6】



【図 7】

